

氏名 多賀茂樹

学位の種類 医学博士

学位授与番号 博甲第898号

学位授与の日付 平成3年3月28日

学位授与の要件 医学研究科外科系産婦人科学専攻
(学位規則第5条第1項該当)学位論文題目 DISTRIBUTION AND CYCLIC CHANGE OF AROMATASE
CYTOCHROME P-450 ACTIVITY IN HUMAN UTERI
(子宮頸部及び内膜における aromatase の局在と周期性変化)

論文審査委員 教授 産賀敏彦 教授 大森弘之 教授 太田善介

学位論文内容の要旨

子宮頸部円柱上皮域, 重層扁平上皮域, 結合組織および子宮内膜の組織中の aromatase の活性を (n=14), $1\beta^3\text{H}$ -androstenedione および ^{14}C -androstenedione を基質に用いて調べ, 卵胞期と黄体期に分けて比較した。卵胞期における aromatase 活性は, 円柱上皮域, 重層扁平上皮域, 結合組織および子宮内膜においてそれぞれ, 15.0 ± 7.9 , 10.9 ± 10.3 , 9.4 ± 10.6 および 8.0 ± 7.3 (mean \pm SD) fmol/h/mg protein であり, いずれの間にも有意な差はなかったが, 円柱上皮域において高い傾向があった。黄体期における aromatase 活性は, それぞれ 31.5 ± 7.6 , 19.1 ± 7.1 , 5.6 ± 4.6 および 6.3 ± 1.5 (mean \pm SD) fmol/h/mg protein で, 円柱上皮域では他のいずれに比べても有意に高く ($p < 0.05$), 重層扁平上皮域では結合組織および子宮内膜に比べて有意に高かったが ($p < 0.05$) 結合組織と子宮内膜との間には有意な差はなかった。また, 卵胞期と黄体期との比較では円柱上皮域の aromatase 活性は黄体期では卵胞期に比べて有意に ($P < 0.05$) 高値を示したが, 他の3領域では卵胞期と黄体期の間には有意差を認めなかった。

なお, 本論文は共著論文であり, 共著者の協力を得て完成したものである。

論文審査の結果の要旨

本研究は子宮におけるアロマトラーゼ活性に関する研究であるが, 子宮頸部および子宮内膜における組織内局在性とその周期性変化に関して重要な知見を得た価値ある業績であると認める。

よって, 本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。